



## GAZOO Racing 86/BRZ Race 2015 第8戦 レースレポート(鈴鹿サーキット)

開催場所：鈴鹿サーキット 開催日：11月7日(土)、8日(日)

### 山野直也選手が魅せた！圧巻のオーバーテイク！

2015年11月7日(土)、8日(日)にGAZOO RACING 86/BRZ Race 2015 第8戦が行われた。

生憎の悪天候のなか行われた最終戦だったが#7 山野直也選手が、今シーズン最高と言える圧巻の走りを魅せた。

7日の予選は上位3選手がコースレコードをマークするなか、山野選手は13位。

一見、順位争いに乗り遅れたかのように見えるが、全ては決勝レースへの布石。

翌日CABANA RACING with P.MU に劇的な展開が待っていた。

8日の決勝レースは降っては止む雨の影響で、多くのドライバーが苦戦するなか、山野選手が持ち前のテクニックでレース序盤に早くも4番手までポジションアップ。

マシンを左右に振り、各コーナーで勝負を仕掛ける気迫に溢れた走りに、会場からも歓声が上がった。

その後もテールトゥノーズの激しいバトルを繰り広げ、最終的には10台をもオーバーテイクする驚異的な走りで見事3位入賞を果たした。

王座奪還には届かなかったもののCABANA RACING with P.MU として、これ以上ない最高の形で最終戦の幕を下ろした。

## ・CABANA Racing with P.MU #7 山野直也選手 コメント

今シーズンも最終戦は、予選ドライ路面／決勝ウェット路面の予報でした。

昨年はドライ路面を重視したタイヤを選択し、ポールポジションを獲得したものの、決勝は4位までポジションダウンしてしまったことから、今回はウェット路面を重視したタイヤ選択をしました。

予選はドライ路面の中、アタックは1周のみでタイヤの消耗を最小限に抑え決勝に臨みました。

作戦は的中し、決勝スタート直前には雨脚も強くなりドライよりなタイヤを選択している上位陣のペースが上げられない中、1周目から何台もの車をオーバーテイクし、レース中盤には3位までポジションアップすることができました。

残り2周で前を走る車両の射程距離内には入ることができましたが、ライバルもミスが少なく追い抜くことなくチェッカーフラッグを受けることとなりました。

今シーズンも厳しい戦いでしたが、最終戦で表彰台の獲得、決勝中のファステストラップも獲得と良い内容でシーズンを締めくくれたことがとても嬉しいです。

また、これも全力で支援して頂いたCABANAさんと応援して頂いた、たくさんのファンの方のお陰です。

本当にありがとうございました。

## ・CABANA Racing with P.MU 代表 安藤 宏 コメント

2015 86/BRZ RACE 第8戦、鈴鹿サーキットでの最終戦は天候を読むのが難しいレースでしたが、予選の一発を半ば諦め、決勝レースに絞ったタイヤを選択した決断力とマシンセッティングの技術力、そして最高難易度の難しいサーキットとコンディションでのレース展開をコントロールする、ドライバーの腕との三位一体により好成績を収めることができました。

予選の直前までタイヤ選択を遅らせて予選、決勝レースの展開を予測、雨に強いタイヤでの追撃戦を挑むことを決断し、予選走行ではタイヤの溝を温存することに努め、決勝レースの荒れた展開に備えるという判断から我慢の展開で13位と不本意な結果に終わりましたが、これが翌日の決勝で功を奏しドラマを生み出すこととなります。

予想通りの雨模様の中でレースが始まり、ゼッケン7、山野選手はスタートから序盤での混乱に巻き込まれず好位置をキープすると、次第に雨足が強まる中、雨に強い「運転巧者、山野直也」が本領を発揮し、始めてレースの主役に躍り出ました。

予選13位の後方から猛追撃を開始してチャンピオン谷口信輝選手やポールシッターの服部 尚貴選手、佐々木雅弘選手らの予選上位陣を次々とかわし3位に躍り出ると、トップの元嶋 佑弥選手と予選2位、織戸学選手を激しくチャージ。

最終ラップまで織戸選手に熾烈なアタックを繰り返しましたが惜しくも3位フィニッシュ。

13位スタートながら3位フィニッシュ、10台抜きの表彰台、3位入賞すら残念に思えるほどの快走劇で本レースの主役といえる大活躍でした。

この最終戦のレースにて CABANA Racing with P.MU の本年度の活動は終了しますが、皆様のおかげさまをもちまして「GAZOO RACING 86/BRZ Race」の二年目も無事終えることができました。

今年もレースによって山あり谷ありの結果でしたが、オートポリスでは念願のチーム初勝利を得ることができましたし、最終戦のようなすばらしい感動的なレースを味わう事もできました。

結果如何にかかわらず充実した一年ではなかったのではないかと考えております。

また勝敗以上に私、安藤を含めチームを応援くださった皆様と、感動や喜び、サーキットで戦う熱気が共有できていれば何よりです。

この場をお借りしまして株式会社トップセレクション、CABANA の代表といたしまして、私どものレース活動を支えてくださった皆様、応援くださった方々に感謝の言葉とともに厚く御礼を申し上げます。

一年間、どうもありがとうございました。